

第4期

「大内まちづくり協議会提言書」

令和3年3月

大内まちづくり協議会委員

- 会 長 小 野 勇 (大内地域町内会長会連絡協議会会長)
- 副会長 伊 藤 廣 美 (元秋田県立大学教員)
- 委 員 東海林 建 夫 (大内地域町内会長会連絡協議会副会長)
- 菊 地 洋 (大内地域町内会長会連絡協議会副会長)
- 長谷部 悟 ((社)由利本荘市社会福祉協議会大内支所推薦)
- 佐々木 好 子 (大内連合婦人会推薦)
- 佐々木 良 行 (大内文化財保護協会推薦)
- 東海林 菊 子 (大内芸術文化協会推薦)
- 小 松 恒 (地域づくり事業実践者)
- 佐々木 奈美子 (芋川を楽しむ会推薦)
- 澤 木 静 子 (大内地区民生児童委員協議会推薦)
- 正 木 鮎 子 (大内地区PTA連合会推薦)
- 工 藤 喜 明 (地域づくり事業実践者)
- 伊 藤 晃 智 (由利本荘市観光協会大内支部(団体)推薦)
- 堀 鐵三郎 (由利本荘市観光協会大内支部(個人)推薦)
- 奥 山 恵理子 (大内農産物直売所ひまわり会推薦)
- 正 木 健太郎 (大内地域認定農業者連絡協議会推薦)
- 東海林 一 郎 (公募委員)
- 堀 川 千穂美 (公募委員)
- 畠 山 新 光 (公募委員)

はじめに

大内まちづくり協議会は、「由利本荘市まちづくり協議会条例」第一条の『市民と行政の協働によるまちづくりを推進し、地域の課題解決及び活性化を図る』という設置目的のため、任期2年（令和元年年8月1日付等）で委嘱された委員の組織である。

第4期大内まちづくり協議会では、第3期までの提言をふまえ具現化を目指し、ぽぼろっこ周辺観光拠点づくり、大内の魅力発信マップづくりをテーマに設定し、それぞれ専門部会を構成し協議・検討を重ねてきました。

本書は、各専門部会の報告を提言書として取りまとめたものです。

なお、新型コロナウイルス感染症対策のため、会議中止など、計画的な運営ができなかったことを補足し明記する。

【専門部会構成委員】

（順不同）

・ぽぼろっこ周辺観光拠点づくり専門部会

（部会長）東海林建夫 （副部会長）伊藤晃智

（委員）長谷部悟、小松恒、佐々木奈美子、正木鮎子、工藤喜明、
奥山恵理子、堀川千穂美、伊藤廣美

・大内の魅力発信マップづくり専門部会

（部会長）畠山新光 （副部会長）澤木静子

（委員）菊地洋、佐々木好子、佐々木良行、東海林菊子、堀鐵三郎、
正木健太朗、東海林一郎、小野勇

【提言取りまとめの経緯】

- 令和元年 8月20日 令和元年度第1回大内まちづくり協議会
協議会の役割と活動、令和元年度大内地域主要事業を確認
専門部会検討テーマと構成を協議・確認し、専門部会別協議

- 令和元年11月15日 大内地域視察研修、専門部会
大内地域の観光ポイントや公共施設等の視察
専門部会を実施し、テーマについて協議

- 令和 2年 2月 3日 令和元年度由利本荘市まちづくり協議会連絡会議
各地域の事業概要の報告と意見交換(会長・副会長出席)(本荘会場)

- 令和 2年 3月24日 大内まちづくり協議会正副会長、専門部会長会議
(専門部会の方向性と進捗状況の確認、および新年度提言する旨を確認)

- 令和 2年 3月24日 第2回大内まちづくり協議会
【新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として開催を延期。】
【感染拡大防止対策が継続され、開催の見通しが立たないため開催を中止。】

- 令和 2年 9月14日 令和2年度第1回大内まちづくり協議会
令和2年度主要事業・予算の説明、現年度・新年度予算への意見具申
専門部会別検討テーマを協議、北部学校給食センター視察

- 令和 2年12月16日 令和2年度由利本荘市まちづくり協議会連絡会議
各地域の事業概要の報告と意見交換(会長・副会長出席)(大内会場)

- 令和 3年 2月 5日 ぽぽろっこ周辺観光拠点づくり専門部会
テーマ協議

- 令和 3年2月18日 大内の魅力発信マップづくり専門部会委員より
提言書(案)について、郵送・書面による意見聴取・内容確認

- 令和 3年 2月22日 ぽぽろっこ周辺観光拠点づくり専門部会
提言書(案)協議

- 令和 3年3月12日 ぽぽろっこ周辺観光拠点づくり専門部会委員より
提言書(案)について、郵送・書面による意見聴取・内容確認

- 令和 3年3月22日 大内まちづくり協議会
提言書(案)について郵送・書面による内容最終確認

- 令和 3年3月26日 第4期大内まちづくり協議会「提言書」市長宛提出

ぽぽろっこ周辺観光拠点づくり専門部会 ― 提言

平成12年より大内町で整備した、ぽぽろっこ周辺エリアは、大内からの情報発信基地として、一定の効果を収めてきた。約20年が経ち、大内地域だけではないが人口減少等による停滞感・閉塞感が続いている。

大内地域の振興と活性化のため、このエリアの更なる交流人口の拡大を目指し、次の通り提言する。

主題 総合交流ターミナル「ぽぽろっこ」を主体とした
“にぎわい”創出と幅広い交流の推進

1. 総合交流ターミナルぽぽろっこ

健全経営の維持・拡大のため、ひまわり会など関係団体との連携強化を図り、方向性や足並みを揃え、地域活性化と賑わい創出の事業を展開するとともに、それらの事業定着に向けて、対策を講じていく必要がある。

2. PR館おおうち

PR館おおうちは、商工会が転居したため空室となっている事務室と、コミュニティホール、PRホール等があり、羽後岩谷駅と併設されている。

ICTを活用した情報発信等により幅広く貸し出すことで、施設利用料収入を活用した賑わい創出事業や仕事づくり活動の展開が期待できることから、活性化に向けた事業展開を進める必要がある。

3. 出羽伝承館

出羽伝承館は、展示機能、図書館機能を有し、地域の文化財や伝統行事

の保存と継承、および芸術文化の向上に努めているが、開館日・開館時間の拡大や、利用者ニーズに応じたサービスの創設などが必要である。

賑わい創出と地域活性化に向けて、運営スタッフの確保と育成、自主事業の開催など、積極的な事業展開に取り組む必要がある。

4. 隣接した三施設の運営体制

ぽぽろっこ・PR館・出羽伝承館の隣接した三施設を、民間団体の力と創意工夫により、1つの集客施設として位置づけ、計画的に事業展開し、各施設の機能を最大限に活かした管理運営を進める体制が重要である。

一例として、ぽぽろっこの指定管理者である㈱大内町交流センターが、三施設の指定管理者となること等が想定される。

5. 芋川桜づつみ・桂川放水路等の周辺環境の活用

ぽぽろっこ周辺は季節毎に様々な景色が楽しめる。そこで、桜づつみについては、散策路等環境の整備促進を働きかけ、広い地域から様々な年代層が訪れることができるようにして、交流人口の増加を図るべきである。

具体的には、桜づつみの中間に「川の辻公園」があるが認知度を上げるため、案内看板の設置が必要である。

また、桂川放水路は、大量の鯉が泳ぎ散策者の目を楽しませているが、国道や鉄道利用者にもPRするため、ゴールデンウィークには、周辺に鯉のぼりを泳がせるなどの、機会を逃さない工夫も検討する必要がある。

さらに、近隣の折渡千体地藏尊には、あじさいロードが整備され、地藏尊例祭などのイベントもあることから、季節に応じた事業の連携を図り、集客に繋げていくことも必要である。

大内の魅力発信マップづくり専門部会 – 提言

1. 企画～取材～編集

『行きたくなる！大内観光案内ツールの取り組み』として、

あまりテーマを広げず目標を絞り

“交流人口の増加を促したい！”

そのために、その一つとして、大内地域のパンフレットがぜひ必要！

そこで、

- ・行政とは異なった視点、住民（まちづくり協議会委員）目線で
- ・三つ折など持ちやすく、またポケットに入るサイズに
- ・カラー摺りで、大内の四季を色鮮やかに
- ・大内の観光・絶景ポイント、何があるか、新たな魅力の発掘も
- ・祭りやイベント、風習、そして、伝承・言い伝え
- ・史跡名勝や天然記念物、指定有形文化財などなど
- ・今ある“にぎわい”を伝えたい
- ・大内の「魅力」を伝えたい（市のパンフには大内の情報が乏しい）

2. 『大内の四季 散策マップ』の提出

この提言書とともに提出します。

印刷物を観光施設などに備え置き、来場者が自由に手に取り、そこから散策につながるように、ふたたび訪れるように、大内の魅力を「発信」してください。